



年 組 名前

道新でワークシート

A

ガリンコ号 3代目就航

【紋別】流水を砕くドリルを備え、紋別沖を進む流氷観光船の3代目「ガリンコ号Ⅲイメル」(366ト)が9日、紋別港に就航した。前日の荒れ模様から一転、靑空が広がった紋別の海に新たな航跡が描かれた。

昨年まで2代目のガリンコ号Ⅱ(150ト)のみで



紋別港に就航したガリンコ号Ⅲイメル

運航していたが、混雑が続いていたことなどから紋別市が9億8780万円をかけて新造した。定員はⅡよりも40人多い235人で、今季はⅡとの2隻体制で3月末まで運航予定。

同日はまだ港から流水を確認できなかったが、就航式で宮川良一市長は「新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら流氷観光を盛り上げたい」とあいさつした。その後、イメルは2回に分けて計85人乗せ紋別沖を航行。船上からはアザラシやオジロワシの姿も見られ、乗客は歓声を上げた。千歳市の会社員(38)は「船内は豪華ですね」と満足そうだった。

(泉本亮太、草間康弘)

2021年1月10日(日)朝刊 全道遅版 社会 22P (記事は一部再編集しています)

B

流氷、網走の北90キロに1管が今季初観測



網走沖北約90キロのオホーツク海に浮かぶ流氷。9日午前11時20分ごろ(1管本部提供)

【小樽】第1管区海上保安本部(小樽)は9日、オホーツク海で今季初の航空機による流氷観測を行い、南端が網走市の北約90キロ付近にあることを確認した。

同本部は「流氷の南下は平年より2、3日早い」(海洋情報部)としている。

釧路海保の職員2人が1管本部釧路航空基地所属の航空機に乗り、同日午前11時10分ごろから約30分、目で観測。流氷の南端付近

では直径2メートル以下の砕け氷や、氷が互いにぶつかり合っただけで縁がまくれ上がった「はす葉氷」が多く見られた。

網走地方気象台によると、14日ごろから北風が強まり、流氷を沿岸から目視できる「流氷初日」は平年よりやや早い今月中旬ごろになりそうだ。同本部は流氷の位置をホームページで公開している。(前野貴大)

2021年1月10日(日)朝刊 全道遅版 社会 22P (記事は一部再編集しています)

